

# 第1学年2組 国語科学習指導案

授業日 平成28年9月30日(金) II校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 桑原 浩二  
会場 附属新潟小学校1年2組教室

## 1 単元名

思い出して書こう ―ばらいろおかしやさん―

## 2 本単元の価値

学習指導要領の第1学年及び第2学年の「B書くこと」には、次のように示されている。

### (1) 目標

(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

### (2) 内容

#### ①指導事項

(1) 書くこと的能力を育てるため、次の事柄について指導する。

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。

オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

#### ②言語活動例

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 想像したことなどを文章に書くこと。

イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。

エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。

オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

本単元では、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」といった一連の文章化過程を大切にしながら、指導事項ア「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」及び指導事項イ「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」に指導の重点を置く。

本単元のねらいは、楽しかったお菓子作りのことについて、したことを時間的な順序に沿って文章を書き表すことである。従来の書くことの指導においても、経験したことを順序よく文章化させようとして取り組んできた。しかし、事実の羅列に終始した文章を書く子どもが見られた。その原因として、次の二点が考えられる。一点目はしたことに對する感じたことを書かせる指導が不十分だということ、二点目は文章化過程における取材後、収集した事柄を絞り込むことなく構造化させてしまっていることである。つまり、子どもは、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という国語科の学習における見方・考え方を十分に働かせていないために、自分の文章を書く上で必要な事柄をどのように見いだせばよいか分からなかったのである。

そこで、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という国語科の学習における見方・考え方を働かせようと考え、特別活動の「教室をレストランにしよう」という学習と関連を図って単元を構成した。なお、本単元では、子どもが実際に経験したお菓子作りを書く題材とした。お菓子作りは、したことの手順が明確なため、入門期の子どもにとって順序よく書き表すために適した題材といえる。また、必要な事柄を収集・系列化させるときには、班で相談させて協働性を発揮させたり、「構成表」などの思考ツールを使わせてツール活用能力を発揮させたりする。

このように、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせることは、国語科において、必要な事柄を収集する力、必要な事柄を多面的・多角的に精査し、構造化する力、考えたことや伝えたいことを言葉にす

る力を培うことにつながる。国語科で育成すべき様々な資質・能力を発揮させられるところに本単元の価値がある。

### 3 本単元で目指す姿

#### お菓子作りのことについて事柄を取捨選択し、楽しかったことを明確に書き表す子ども

具体的には、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という見方・考え方を働かせ、「構成表」を用いてツール活用能力を発揮し、時間的な順序に沿ってつながりのある文章を書き表す姿。

### 4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

### 5 指導計画 全6時間(180)

単元カード参照

### 6 指導の構想

まず、国語科の単元に入る前に、特別活動の単元である「教室をレストランにしよう」を設定する。これは、自分たちで料理を作り、お店屋さんを開いて楽しむ学習である。お店屋さん活動は生活科でも経験していることではあるが、自分たちだけで料理を作ることは初めてである。以前、学級行事として親子で作った団子作りを今度は子どもだけで行わせる。親子で協力して作った団子を自分たちだけで作るというのは、子どもにとって成長の気付きにもつながる。

そして、団子作りの活動後、国語科の単元「おもい出してかこう」という学習を位置付ける。これは、楽しかった団子作りをおうちの人に書いて伝える学習である。子どもは、家庭学習で継続的に日記を書いてはいるものの、実際には、「したこと」と「そのときの気持ち」で構成される4～8文程度の文章しか書けない状態である。また、「始めに」「次に」「最後に」などの順序を表す言葉を用いて書くことはできるが、そのときの気持ちや様子まで詳しく書くことはできない。

そこで、お菓子作りの感想を問い、班で交流させる。子どもは、「上手にお団子を丸められたよ」「盛り付けしたことが楽しかったね」などと言い、お菓子作りの手順やそのときの気持ちを想起する。そして、「粉をこねたこと」「お団子をゆでたこと」「盛り付けをしたこと」など、お菓子作りでしたことを付箋紙に書き出す。ここでは、お菓子作りでしたことを思いついたままに想起している段階である。できるだけ多くの付箋紙を書き出させることで、書くために必要な事柄を収集させる。子どもは、**書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する**という見方・考え方を働かせながら、必要な事柄を収集する力（国語科②思考力・判断力・表現力）を発揮する。また、このときの子どもは、ペアや班で話し合いながら活動に励んだり（④協働性）、書くために必要な事柄を収集するために思考ツールを使おうと考えたり（⑤ツール活用能力）する。このような、書くために必要な事柄を収集した子ども（C0）に、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

誰に伝えたいかを選択させ、判断した理由を問う。

問いをもたせるための働き掛けである。

お菓子作りでしたことを複数の付箋紙に書き出した子どもに、誰に伝えたいかを選択させ、判断した理由を問う。子どもは、「おうちの人に書いて伝えたいな。楽しかったことを書いて伝えたいから」「お菓子作りの先生に書いてみたいな。教えてもらった作り方でできたことを書いて伝えたいよ」などと、伝えたい相手とその理由を表出し、書いて伝えたい気持ちを高める。同時に、子どもは、「したこと付箋紙をどのように使って書けばよいのかな」と必要な事柄を多面的・多角的に精査し構造化する力（国語科②思考力・判断力・表現力）を発揮して考える。このように、文章を書きたい意欲を高めたり、「どのように書けばよいのか」などと疑問をもったりした姿を問いをもった姿とする。ただし、この時点では「文章を書きたい」と考えてはいるが、「付箋紙をどのように使って書こうか」という見通しをもててはいない。

#### 働き掛け2

収集した付箋紙を提示し、文章化するための方法を問う。

見通しをもたせ、書くために必要な事柄を順序よくとらえさせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに、収集した付箋紙を提示し、「集めた付箋紙をどうすれば文章が書けそうか」

と文章化するための方法を問う。すると子どもは、文章を構成するための思考ツールである「構成表」が活用できると考え、お菓子作りでしたことを時間的な順序に沿って並べていけば文章が書けそうだと見通しをもつ。子どもが「構成表」を欲したら、何のために「構成表」がいるのかを問い、収集した事柄を系列化するために必要な使い方であれば「構成表」を配付する。子どもは、「構成表」を使い、時間的な順序に着目しながらお菓子作りでしたことの付箋紙を順序よく並び替え、系列化する（**国語科①知識・技能**）。必要な事柄を系列化し、見通しをもった子どもに次のように働き掛ける。

#### 働き掛け 3

**必要な付箋紙を選択させ、判断した理由を問う。**

自分の文章に必要な事柄を比較・関係付けさせるための働き掛けである。

お菓子作りでしたことの付箋紙を「構成表」に貼り付けた子どもに、必要な付箋紙を選択させ、判断した理由を問う。なぜならば、「構成表」は数多くの付箋紙が貼ってあり、楽しかったお菓子作りを伝えるために必要な付箋紙もあれば、そうでない付箋紙もあるからである。この段階において、書く事柄を取捨選択させなければ、最終的に仕上がる文章が事実の羅列になってしまったり、伝えたいことが不明確になってしまったりする。子どもは、「構成表」に貼り付けた付箋紙の中から最も伝えたい事柄の付箋紙を選択し、「最後にした盛り付けをしたことの付箋紙は『構成表』に残しておこう。なぜなら、かわいい盛り付けができてうれしかったから」「始めにしてみた「団子をこねたこと」の付箋紙は、必要だな。団子を触ってみたらもちもちして気持ちよかったことを書きたいな」などと選択した理由を付箋紙に書く。このようにして、子どもは、お菓子作りの文章を書く上で、最も伝えたい事柄を選び、必要な事柄のみを「構成表」に残す。また、このときの子どもは、ペアや班で話し合いながら活動に励んだり（**④協働性**）、書くために必要な事柄を比較・関係付けするために「構成表」を使おうと考えたり（**⑤ツール活用能力**）する。

その後、最終的な文章を記述させる。子どもは「構成表」を見ながら、意欲的に書き表す（**国語科③態度**）。記述後には、班で互いの文章を読み返させ、よく分からないところはないか、もっと詳しく聞いてみたいところはないか、互いに助言し合う（**④協働性**）。ここでは、仕上がった文章に書き足したり、削ったりしてもよいこととする。「**書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する**」「**相手や目的、意図と関係付けて考えること**」という見方・考え方を働かせながら、「構成表」を使って、書くために必要な事柄を取捨選択したり（**⑤ツール活用能力**）、必要な事柄を多面的・多角的に精査し構造化したり（**国語科②思考力・判断力・表現力**）して文章を仕上げることで、**お菓子作りのことについて事柄を取捨選択し、楽しかったことを明確に書き表す子ども（Cn）**になる。

#### 働き掛け 4

**自分の考えを明確に書き表すことができた理由を問い、振り返りを記述させる。**

子どもに達成感を味わわせ、様々な資質・能力を発揮したことで課題を解決できたことを自覚させるための働き掛けである。

最終的な文章が完成した後、班で互いの文章を交流させる場を設定する。すると子どもは、友達や自分の文章のよいところに気付く。そのような子どもに対して、「どのように書くと自分の考えが伝わる文章になるか」と自分の考えを明確に書き表すことができた理由を問い、振り返りを記述させる。

こうすることで、子どもは、「お菓子作りの順序に沿ってしたことを考えることで、楽しかったお菓子作りが伝わる文章が書けました（**国語科①知識・技能**）。『構成表』を使って（**⑤ツール活用能力**）、書くことの事柄を並び替えたり、選んだりして文章を書いたことがよかったです（**国語科②思考力・判断力・表現力**）」などと記述し、様々な資質・能力を発揮したことにより課題解決ができたことを自覚する。

## 7 本時の構想（本時 2 / 6 時間）

### (1) ねらい

「構成表」を用いてツール活用能力を発揮したり、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という見方・考え方を発揮したりしながら、書くために必要な事柄を取捨選択し、系列化することができる。

### (2) 主張（展開） 3Q（45分）

このような子どもに（C0）

○ 「始め—中—終わり」の三部構成を用い、おうちの人へ伝えたいことを「したこと」「そのと

きの気持ち」を中心とした4～8文程度の日記を書いている。

- 順序を表す言葉や五感を使った表現を使って簡単な文章を書くことができるようになってきている。
- 時間的な順序に着目することで、つながりのある文章が書けるという見方・考え方を経験している。
- 書こうとする意欲が高まっている。
- お菓子作りを想起し、お菓子作りでしたことを付箋紙に書き出し、書くために必要な事柄を収集している。

#### このように働きかけると【働き掛け1】

- 誰に伝えたいかを選択させ、判断した理由を問う。
  - ・説明「みなさん、白玉団子作りでしたことを付箋紙に書き出せましたね」
  - ・発問「このことを誰に伝えたいですか。それはどうしてですか」
- ※ ペアや班で話し合わせる。
- ※ 挙手を求めたり、つぶやきを拾ったりして、誰に伝えたいのかその理由を表出させる。
- ※ 理由が不明確な場合は、問い返す。
- ※ 表出された意見を黒板で整理する。
- ※ 「書いて伝えたい」という意見が表出された場合、挙手を求めて確認する。
  - ・説明「みなさんの意見を聞くと、おうちの人に書いて伝えたいという人が多いようですね。それでは、次の国語の時間から、白玉団子作りの文章を書いていきましょう」

#### このようになり (G1)

- 問いをもち、学習課題をつくる。
  - ・おうちの人に書いて伝えたいな。楽しかったことを書いて伝えたいから。
  - ・お菓子作りの先生に書いてみたいな。教えてもらった作り方でできたことを書いて伝えたいよ。
  - ・したことの付箋紙をどのように使って書けばよいのかな。
- ※ 文章を書きたい意欲を高めたり、「どのように書けばよいのか」などと疑問をもったりした姿を問いをもった姿とする。

~~~~~ 本時ここから ~~~~~

#### このように働きかけると【働き掛け2】

- 収集した付箋紙を提示し、文章化するための方法を問う。
  - ・説明「みなさん、前回の授業では、白玉団子作りでしたことを付箋紙にたくさん書き出せましたね。おうちの人に文章を書いて伝えたい人が多くいました。それでは、今日から文章を書いていきましょう」
- ※ 机上に作業シートを用意させる。
  - ・発問「それでは、集めた付箋紙をどのようにすれば文章が書けそうですか」
- ※ 作業シートを提示しながら問う。
- ※ 子どもが「構成表」を欲したら、何のために「構成表」がいるのかを問い、収集した事柄を系列化するために必要な使い方であれば「構成表」を配付する。
- ※ 拡大した「構成表」を黒板に掲示する。
  - ・指示「みなさんの意見を聞くと、『構成表』を使って、したことを順序よく並べていきたいという人が多いようですね。それでは、したことの付箋紙を『構成表』に順序よく並べていきましょう」
- ※ 作業シートに収集した付箋紙を白玉団子作りの順序に沿って「構成表」に貼らせる。

#### このようになり (G2)

- 見通しをもち、白玉団子作りの順序を考えて、「構成表」にしたことの付箋紙を時間的な順序に沿って系列化する。
  - ・「構成表」を使って、したことを順番に並べ替えれば文章が書けそう。
  - ・「構成表」があれば、したことを「始め—中—終わり」にまとめることができそう。
  - ・「粉をこねたこと」の付箋紙が始めに来るな。
  - ・「お団子をゆでたこと」の付箋紙は、その次かな。
  - ・「盛り付けたこと」の付箋紙は、したことの最後かな。

※ 白玉団子作りでしたことを時間的な順序に沿って系列化したいと考え、「構成表」を活用したいと「ツール活用能力」を発揮する。

### このように働き掛けると【働き掛け3】

- 必要な付箋紙を選択させ、判断した理由を問う。
  - ・説明「みなさん、『構成表』を使って、白玉団子作りでしたことの付箋紙を順序よく並び替えることができましたね」
  - ・発問「たくさん付箋紙が貼ってありますが、みなさんが文章を書くために伝えたい付箋紙はどれですか」
  - ・指示「伝えたい付箋紙だけを構成表に残して、残りの付箋紙は、作業シートに戻しましょう」
- ※ 最も伝えたい事柄と判断した付箋紙のみを「構成表」に残させ、使用しないと判断した付箋紙は、作業シートもしくは「構成表」の裏面に貼らせる。
- ※ 補助発問「どうして、このことを伝えたいのですか」
- ※ 挙手を求めたり、つぶやきを拾ったりして、必要な付箋紙はどれかを理由と共に表出させる。
- ※ 子どもを指名し、選択した付箋紙とその理由を全体の前で発表させる。
- ※ 理由が不明確な場合は、問い返す。
- ※ 選択した付箋紙と理由を画用紙に書き、拡大した「構成表」に貼ってモデリングする。
  - ・指示「なぜその付箋紙のことを伝えたいのか理由を書いて、このように、したことの付箋紙の下に書いてみましょう」
- ※ ペアや班で話し合わせる。
- ※ 「構成表」に貼ってある付箋紙が貼りすぎていてすべてを使って文章化できないという反応があった場合は、採り上げて全体で共有する。
  
- 「構成表」を基に、最終的な文章を記述させる。
  - ・指示「それでは、『構成表』を基にして、文章を書いてみましょう」
- ※ 「構成表」を見ながら文章を記述するように指示する。
- ※ 原稿用紙を配付する。
- ※ 文章量は、300～400字とする。
  
- 仕上げた文章に誤字脱字や直したいところはないかを問い、文章を読み返させる。
  - ・指示「みなさん、白玉団子作りの文章が完成しましたね。それでは、これから班の形になって、互いの文章を読み合い、よく分からないところはないか、もっと詳しく聞いてみたいところはないか話し合ってみましょう」
- ※ 仕上がった文章に書き足したり、削ったりしてもよいこととする。
- ※ 構成表にも書き足したり、削ったりしてもよいこととする。

### このようになり (Gn)

- 「構成表」に貼り付けた付箋紙の中から最も伝えたい事柄の付箋紙を選択し、選択した理由を付箋紙に書く。
  - ・ 最後にした「盛り付けをしたこと」の付箋紙は「構成表」に残しておこう。なぜなら、かわいい盛り付けができてうれしかったから。
  - ・ 始めにしてみた「団子をこねたこと」の付箋紙は、必要だな。団子を触って見たらもちもちして気持ちよかったことを書きたいな。
  - ・ 「お湯を沸かしたこと」の付箋紙はいらないから、作業シートに戻そう。
  
- 最終的な文章を記述する。
  - ・ きょう、家庭科室で2組のみんなと団子作りをしました。はじめに、団子をこねました。団子を触って見たら、もちもちして気持ちよかったです。次に、団子をゆでました。団子がぶかぶか浮いてくるのがおもしろかったです。最後に、盛りつけをしました。かわいい盛り付けができてうれしかったです。ぼくは、団子作りが楽しかったです。今度は、おうちでも団子を作ってみたいです。

- 自分の文章を読み返し、推敲する。
  - ・ 浩二さんの文章には、字の間違いがあるから、正しく直した方がいいよ。
  - ・ 「団子をゆでたこと」のところには、まだ書き足したいところがあるから付け加えてみよう。

本時ここまで

#### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 完成した文章を交流する場面を設定する。
  - ・ 指示「みなさん、白玉団子作りの文章が完成しましたね。それでは、これから班の友達と自由に文章を読み合い、よいところをたくさん探しましょう」
- ※ 班で交流させる。
- ※ 最終的な文章は、日記ファイルに綴じさせておく。
- ※ 互いのよいところを見付けるように指示をする。
- 自分の考えを明確に書き表すことができた理由を問い、振り返りを記述させる。
  - ・ 発問「みなさんは、どのようにして自分の考えが伝わる文章を書けたのですか。理由を振り返りシートに書いてみましょう」
- ※ 振り返りシートを配付する。
- ※ 振り返りシートに本單元における学び（感想と理由）を記入させる。
- ※ 振り返りは、ペアで紹介させた後、全体で共有させる。

#### このようになる

- 互いの文章を読み合い、感想を交流する。
  - ・ 穰さんは、お菓子作りでしたことを順序よく書いているよ。
  - ・ 雄大さんの文章は、お菓子作りをして感じたことが分かりやすく書いてあるよ。
- ※ 互いのよいところを見付けるように指示をする。
- 様々な資質・能力を発揮したことで、課題を解決できたことを自覚する。
  - ・ お菓子作りの順序に沿ってしたことを考えることで、楽しかったお菓子作りが伝わる文章が書けました。「構成表」を使って、書くことの事柄を並び替えたり、選んだりして文章を書いたことがよかったです。
- ※ 振り返りシートを配付する。
- ※ 振り返りシートに本單元における学び（感想と理由）を記入させる。
- ※ 振り返りは、ペアで紹介させた後、全体で共有させる。

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、          のように、したことや感じたことを時間的な順序に沿って文章を書き表すことができたかどうかを、子どもの文章から判断する。
- ② 働き掛け2、3を受けて、          のように、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という姿が見られたかどうかを、実際の子どもの姿や撮影した映像及び「構成表」から判断する。
- ③ すべての働きかけにおいて、次のような姿が見られたかどうかを、実際の子どもの発言や撮影した映像から判断する。
  - ア.           のように、必要な事柄を収集するために、「構成表」を活用して収集した事柄を系列化したいという姿が見られたら、ツール活用能力を発揮したとみなす。
  - イ.           のように、互いに文章を推敲したり、よいところを見付けようとしたりする姿が見られたら、協働性を発揮したとみなす。
- ④ 働き掛け4を受けて、          のように発揮した資質・能力を自覚することができたかを、振り返りシートの記述から判断する。